

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」長久手校		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 9日		2024年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数) 22名
○従業者評価実施期間	2024年 12月 9日		2024年 12月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の年齢が若く、利用者様と近い年齢となるため、利用者様が盛り上がっている話題を十分理解できること	利用者様が盛り上がっている話題の遊びやゲーム等を事業所でも導入し、一緒に取り組みながら信頼関係を構築していき、無理なく利用を継続することができるよう丁寧なかかわりを意識しています。	利用者様にとってより身近な存在だと思ってもらえるよう、利用者様のニーズを正しく受け止め、丁寧かつ利用者様を尊重した対応ができるよう日々心掛けていきます。
2	マンツーマン療育の提供ができる環境・職員配置があること	利用者様が取り組みたい課題をマンツーマンで提供することができ、必要に応じて職員が複数名で対応したり、他児とのかかわりを展開する手伝いをしたり等、利用者様の現状に合わせて集団・個別の使い分けを行っています。	利用者様の調子や気分に合わせて様々な環境設定を案内することができるよう固定観念にとらわれず、対応方法を検討していきます。
3	保護者様に送迎をお願いすることで、近況や困り感についてこまめにお伺いできること	来所時や療育内容の報告時に、近況やお伺いしておいた方がよいことを伺う時間を作り、適宜お話を伺いできるよう意識しています。 また、校舎のビジネスLINEやzoom、電話等でご相談いただく等、保護者様の状況に合わせて対応させていただいております。	お声掛けいただく保護者様以外の方へも適切にお伺いすることができるよう、日頃から丁寧なコミュニケーションを心掛け、困った時に頼りにしていただけるような関係性づくりに努めます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の平均年齢が低く、子育てを含む様々な経験が少ない職員ばかりなため、保護者様の悩みに経験者として寄り添い切れないこと	年齢に即した経験しかないため、経験したことがない事象等に対する対応力に不安があります。	子育て経験のある他校舎の職員や、上長、外部の講師の講演会や研修会へ積極的に参加し、より幅広い知見を持ち合わせた職員として対応することができるよう努めます。
2	二階建ての物件にて運営しているため、肢体に不自由さをお持ちの方への支援の幅が狭まること	賃貸物件のため、バリアフリー化については対応が限られています。現時点では移転の予定がないため、現在運営している建物の契約が終了した際には建物の選定をする必要があると考えています。	現在肢体が不自由な利用者様はいらっしゃらないですが、未満児の利用者様等階段の昇降に不安を感じていらっしゃる方へは一階の支援室をご案内しております。 また、一時的に足を負傷している利用者様やご懐妊中の保護者様へも一階をご案内しております。
3	利用希望者が多く、曜日や時間帯の希望によってはご案内が難しいこと また、新規利用希望者へのご案内が難しいこと	事業所を開校して三年程しか経過していないため、今までは利用終了の促しが積極的に行えていなかったと感じています。	今後は放課後等デイサービスの適正利用へ向けて利用者様、保護者様と相談しながら利用終了・利用形態の変更の促し・他事業所、塾等への案内を強化していきます。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」長久手校

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数 23名

回収数 22名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	21	0	1	0	・適度に広くて子供も動きやすいです。	関係法令に則った環境設定にて運営しています。 また、パーテーションや個室を用意することで、個別のスペースを確保しています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	17	3	0	2	・いつでもきちんとして対応してもらえます。 ・予約とれないときがあるので先生やお部屋の数がもつとあれば（部屋のスペースは縮小せず）、とりたい日時に予約が取れるのではないかと思ったので。	関係法令に則った職員配置にて運営しています。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	16	4	1	1	・お部屋に番号があってわかりやすい。	療育室の掲示物を極力減らし、集中しやすい環境づくりを心がけています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	21	1	0	0	・いつもとてもきれいです。 ・隣の部屋にいる子の声が聞こえることもあつので、防音にしていただけでもっと集中できるのではないかなと思います。	集団療育を行うことも考慮し、完全な個室のご案内は少ないです。予算の都合上防音設備の導入は難しいですが、利用者様同士の距離を離す等対応させていただきます。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	21	1	0	0		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	21	0	0	1		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	21	1	0	0		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	20	2	0	0		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	22	0	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	21	0	0	1	・たくさんの種類が用意されていて、選ぶのも楽しそうです。	様々な困り感にアプローチすることができるよう、情報を収集しながら新しい教材を補充しています。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	8	2	11	1	・交流を求めているないので、不満に思っていないです。	現在交流は行っていません。今後はニーズに合わせて検討していきます。
保 護 者 へ の	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	22	0	0	0		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	20	1	0	1		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	1	5	6		今後は講師の方が決定し次第、保護者様向けの研修会の開催を計画したいと考えています。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	21	0	0	1	・心配な点やお願い事はすぐに柔軟に対応して頂いています。	来所時や療育内容のご報告時に近況をお伺いする時間をいただいております。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	20	0	2	0		引き続き職員から積極的に働きかけ、保護者様都合に合わせて方法で随時相談等に対応していきます。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	21	1	0	0		引き続き細やかな配慮が行き届くよう職員間で共有し、対応していきます。

の 説 明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	11	2	5	4		利用者様向けの季節のイベントにて、きょうだいの皆様へ参加をご案内しています。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	20	1	0	1		引き続き職員から積極的に働きかけ、保護者様都合に合わせた方法で随時相談等に対応してまいります。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	20	1	0	1		引き続き細やかな配慮が行き届くよう職員間で共有し、対応してまいります。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	19	2	0	1		毎月末に会報としてLINEにて、職員が投稿しているブログや防災、感染症対策等の訓練の様子について発信しています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	20	2	0	0		引き続き細やかな配慮が行き届くよう職員間で共有し、対応してまいります。
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	19	1	0	2		保護者様が随時閲覧できるよう、各マニュアルを玄関スペースに設置しています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	18	1	0	3		月に一度、防災訓練を実施しています。利用者様に参加してもらったり、訓練の様子をブログにて投稿したりしています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	18	1	0	3		保護者様が随時閲覧できるよう、安全計画を玄関スペースに設置しています。月毎の確認事項について確認し、安全に運営することができるよう意識しています。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	18	1	0	3		事故や怪我があった場合、できる限り早急にご報告させていただいております。今後も事故や怪我のないよう安全に配慮しながら支援を行ってまいります。
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	22	0	0	0		引き続き利用者様にとって必要とされる場所になれるよう、サービスの質の維持・向上に努めます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	19	2	0	1		引き続き利用者様にとって必要とされる場所になれるよう、サービスの質の維持・向上に努めます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	20	2	0	0	・柔軟に対応して頂いたり、療育も丁寧に指導して頂いてます。また季節ごとのイベントも楽しみにしています。	引き続き保護者様にご満足いただけるようサービスの質の維持・向上に努めます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	こどもサポート教室「きらり」長久手校		公表日		2025年 2月 15日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		関係法令に則った環境設定にて運営しています。また、パーテーションや個室を用意することで、個別のスペースを確保しています。	今後、不都合が生じた場合は、早急に対応します。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		関係法令に則った職員配置にて運営しています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	貨物物の構造の都合上、玄関がある一階から支援室がある二階まで階段があります。階段の昇降に不安を感じられる方へは一階の支援室、待合スペースをご案内しています。	問題が生じた場合は職員間で話し合い、校舎としてできる限り対応します。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		その時ご利用いただいている利用者様の趣向に合わせて壁面を調整しています。毎日掃除機による清掃、日に複数回消毒を行っています。	引き続き利用者様の興味関心に合わせて環境設定を見直します。引き続き感染対策を行いながら清潔な校舎を心掛けます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		扉やパーテーションで仕切られた部屋を、いつでも使用できるように設置しています。	隣の部屋の音等が干渉する件については、利用者様同士を離す等できる限りの対応を行います。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		ご指摘があった際やヒヤリハットを確認した際、職員間で共有・話し合いを行い、早急に対応することを心掛けています。	引き続き課題意識を持って業務にあたるよう心掛けます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		法令に合わせて年一回、事業所評価を実施し、業務改善につなげています。	できるだけ多くのご意見をいただくことのできるよう話しやすい環境づくりを心掛けます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		適宜職員間でよりよい校舎運営について意見を出し合い、都度対応しています。	引き続き課題意識を持って業務にあたるよう心掛けます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	現在保護者・職員の二者評価を行っています。	今後外部評価について実施予定はありませんが、必要に応じて会社と相談し対応します。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		毎月一回以上の校舎内研修や法人全体研修等を実施しています。また、長久手市内の研修や愛知県内の研修等、外部研修にも積極的に参加しています。	様々な事項に意識を向け、職員同士のコミュニケーションを通して情報感度を高め合いながら業務にあたるよう心掛けます。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページにて公開しています。	今後はご利用いただいている利用者様の様子に合わせて必要に応じて内容を調整します。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		年に一度、保護者様にアセスメントシートをご記入いただき、現状に合わせた計画を作成・提案しています。共有していただいた検査結果や情報を踏まえて、無理のない課題設定を心掛けています。	日頃の会話等から利用者様、保護者様のニーズを取り逃すことのないよう情報収集を心掛けます。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		毎日のミーティングにて利用者様の様子を共有し、必要に応じて相談・提案し合いながら支援内容・方向性の検討をしています。	定期的に再アセスメントを行い、発達段階の把握をすることで適切な支援を提供することができるよう心掛けます。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援計画作成会議を行い、担当指導員以外の職員からも意見を聞きながら、より利用者様の状況やニーズに合った課題を提供することができるよう心掛けています。	定期的に再アセスメントを行い、発達段階の把握をすることで適切な支援を提供することができるよう心掛けます。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		NCプログラムを使って6か月毎にアセスメントを行っています。	定期的に再アセスメントを行い、発達段階の把握をすることで適切な支援を提供することができるよう心掛けます。

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		相談支援事業所等とのサービス担当者会議を踏まえて、適切な目標をご提案し、具体的な支援内容を設定しています。	引き続き丁寧なモニタリングを心掛け、適切な目標のご提案をすることができるよう職員間で情報の共有の強化を図ります。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		毎日のミーティングにて利用者様の様子を共有し、担当指導員だけでなく職員全員で利用者様の課題について話し合い、プログラムを調整しています。	引き続き職員全員で話し合い、多面的に支援内容を検討します。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		利用者様の成長に合わせてプログラムを調整・変更しています。	教材の拡充や地区毎の会議にて教材の共有を行い、個々に合わせた活動プログラムのご提案ができるよう工夫します。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		利用者様のニーズに合わせて個別、集団の療育を提供しています。	引き続き利用者様のニーズに合わせて支援計画を作成し、療育を提供します。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日のミーティングにて打ち合わせをし、引継ぎ事項や支援内容について確認しています。	引き続き毎日のミーティングを行い、打ち合わせ・確認をします。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		毎日のミーティングにて支援について振り返り、引継ぎ事項の確認をしています。	引き続き丁寧な引継ぎを心掛けます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援終了後は必ず支援記録を記入し、支援の改善につなげています。	引き続き支援の検証・改善につながるような支援記録の作成に努めます。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6か月毎にモニタリングを実施し、計画の見直しをしています。	モニタリングの時期でなくても、必要に応じて適宜計画の見直しを行います。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		担当指導員が作成した事業所見参し、児童発達支援管理責任者・担当指導員が出席しています。	引き続き利用者様、保護者様の状況をよく理解している者が出席することができるように努めます。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		市役所、相談支援事業所、社会福祉協議会、近隣事業所、一部の病院等と連携し、連絡会や研修に参加することで情報共有を行っています。	今後もよりよい連携のために連絡会や研修会へ参加します。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者様の資料作成をお手伝いさせていただいたり、必要に応じて関係機関と情報共有を行うことがあります。	今後も必要に応じて対応します。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者様の資料作成をお手伝いさせていただいたり、必要に応じて関係機関と情報共有を行うことがあります。	今後も必要に応じて対応します。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			現状できていないため、今後積極的に連携を図ってまいります。
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○			現状機会がありませんが、希望に合わせて対応を検討します。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		支援終了後のフィードバックを行い、現在の状況について話し合う機会を設けています。	より一層丁寧な情報共有ができるよう、保護者様との会話を通して情報を取り逃すことのないよう心掛けます。	

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		家族支援プログラムを提供できる講師が確保出来次第、開催を検討します。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に保護者様と書類の確認をするともに、不明な点があれば都度説明を行っています。	該当する事項があれば改めて丁寧な説明を行うことを心掛けています。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		保護者様の希望と利用者様の状況を鑑み、都度事業所内で取り組むことができる課題の精査を行いながら保護者様へ説明しています。	引き続き利用者様の無理のない課題設定を心掛け、保護者様のご理解を得られるよう丁寧な説明を心掛けています。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		契約時、更新時に説明し、気になる箇所や調整したい箇所があれば都度調整を行っています。	引き続き丁寧な説明を心掛けています。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		利用の際にお話を伺い、直近の困り感をいち早く支援に取り入れることができるよう努めています。	より一層相談しやすい環境や関係性を築くことができるよう心掛けています。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		今後、要望や必要性に合わせて形態や内容について検討します。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談の申入れがあった場合、内容に合わせて児童発達支援管理責任者又は指導員が対応しています。	より一層相談しやすい環境や関係性を築くことができるよう心掛けています。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月末に会報としてLINEにて職員が投稿しているブログや防災、感染症対策等の訓練の様子、イベントの情報について発信しています。	引き続き事業所で行われている行事等の取り組みに興味を持っていただけるような働きかけを考えていきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報にかかわる書類やパソコンや鍵付きキャビネットにて収納・管理しています。	個人情報の漏洩にかかわる場面がないか、日々校舎内を確認し合い意識して行動します。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		非言語コミュニケーションを必要とする利用者様にはコミュニケーションツール(絵カード、PECS等)や筆談等を提案しています。	利用者様の状況に合わせてコミュニケーションツールを増やしたり、提案したりします。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		今後要望や必要性に合わせて形態や内容について検討します。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルを作成し、職員へ周知しています。	保護者様が随時閲覧できるよう玄関に設置しています。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		計画を策定し、訓練を実施しています。	今後会報等で保護者様へも周知できるようにします。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		利用開始時に服薬、アレルギー、発作の有無を確認しています。	引き続き年度替わりに申告情報に変更がないか確認することを徹底します。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○		年に一度アレルギーについて確認しています。行事等、校舎内でアレルギーと接触する可能性がある場合は事前に改めて保護者様へ確認を取り、事故が起こることのないよう注意して対応しています。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に則り、時期に合わせた安全確認を行っています。	引き続き必要に応じて計画内容を調整し、より安全な療育環境を提供することができるよう心掛けています。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画を作成し、保護者様がいつでも閲覧できるよう玄関に設置しています。	今後会報等で保護者様へも周知できるようにします。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットがあった場合職員間で共有し、再発防止に向けて会議を行い対応しています。また、日付を設定し対応内容について再度見直しを行っています。	地区毎の管理者会議にてヒヤリハット事例について共有し、起こる可能性のあるヒヤリハットを未然に防ぐことができるようにします。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		年に四回虐待・身体拘束に関する研修を会社全体で行っています。	必要に応じて外部研修に参加したり、参加した研修の内容を職員間で共有したりして事例の共有や虐待に関する情報の共有等を行います。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		重要事項説明書に明記し、契約時にやむを得ない場合の対応や身体拘束が続いた場合の対応について説明しています。	どのような行為が身体拘束にあたるのか、特にスピーチロックやフィジカルロックについて、常に職員の意識啓発に努めてまいります。